

会 議 録

名 称	平成27年度 第5回松山市商工業立地促進審議会	
事務局	産業経済部地域経済課 TEL 089-948-6714 FAX 089-934-1844	
開催日時	平成27年12月25日(金)13:30~15:30	
開催場所	松山市役所 別館6階 第1委員会室	
出席者	委 員	[委員] 浅野 勉, 大西 隆, 川瀬 久美子, 高木 正江, 高野 泰匡, 千葉 幸治, 中村 良平, 宮原 正枝, 三好 博 (50音順, 敬称略, 計9名) [オブザーバー] 四国経済産業局産業部産業振興課 久保課長 愛媛県経済労働部管理局企業立地課 松田主幹 愛媛県経済労働部産業支援局経営支援課 三好商業振興係長 (順不同, 敬称略, 計3名)
	事務局	平野産業経済部長, 中島産業経済部副部長地域経済課長事務取扱 ほか
議 題	議題① ゲストからのプレゼンテーション 議題② 松山市商工業立地促進審議会 答申(案)について	

■議題① ゲストからのプレゼンテーション

【中心市街地の現状および今後の展開等について】

- 平成19年から平成24年の間で、道後も含む中心市街地の商品販売額は約500億円減少している。
- 審議会の中でも商業に関する議論はしており、数字の整理もしてきたが、例えば松山都市圏域への住民アンケートで、中心市街地の商業機能の一部に物足りなさを感じているという意見があった一方、郊外の大型店舗に期待もあるという意見もあった。
- 築30年以上の建物が中心市街地にはたくさんあり、設備・施設の更新が進んでないところが、一番の原因ではないかと考えている。
- 人口が減っていく中で、どういう風な商業展開、まちづくりをしていくのかという話を本来はしなければならないのに、目の前のことで精一杯となっていることが勿体ない。
- 中心市街地には伝統があり、既にある程度の資産ができあがっているので、時代の変化に対応しようとする建て替えをしなければならない。それに比べて郊外は更地に作っていくので手っ取り早い。全国の中心市

街地が衰退しているのは、そういう時代の流れになかなかついていけなかったからだろう。

- 松山は中心市街地が一定程度栄えている都市の1つではないかと考えている。しかし、危ない部分もあるのではないかと。これに対抗するためには、時代の流れをいかにキャッチアップするかということが重要。
- 道路を整備していくのは良いが、中心部に入りづらくなっているという交通面での影響もあるのではないかと。
- 道後と中心市街地を繋げようという考えを持って、道後地域の若手と協働するようにしている。

【中心市街地における地域経済の循環について】

- 外貨の獲得を松山で考えた場合、工業以外ですぐに連想できるのは観光だと思う。
- 地域内の循環の促進というのが1つのポイントで、循環を促進すれば波及効果も高くなるわけだが、具体的な取り組みや計画されていることはあるか。
- 設備の更新を進めなければいけない。商売人の意識も変えなければいけない。みんなの場所としての意識を持って、何か変えていかなければならないこともあるのではないかと。
- 歳末抽選会を例に挙げると、今までは自転車やテレビなどの景品を使っていたが、街中でしか使えないお買い物券が何万円分当たるという形に変えて実施している。自分たちのお金が地域内で回り、それが消費喚起を促して、地域にお金が入ってくるような形を作りたい。
- 販促活動などを行う時には、できるだけ県外業者ではなく、地元の業者を使うようにしている。
- プレミアム付き商品券を例に挙げると、その経済効果が地域内で循環するような仕組みを作ることが必要。
- 地域で稼いだお金を地域内で使うということは、大きなポイントだと思う。また、もう少し上流のことを考えると、そこで買った物がその周辺で作られていなければ、結局全部外に流れてしまう。
- 地産と一言で言うと簡単だが、地域内で供給されなければせっかくやっても漏れていくので、松山市内、中予地域、さらには愛媛県内といった範囲で供給する仕組みを検討することも次の一手として大事。
- 例えば、お土産品でクラフト品やアクセサリなどがたくさんあるが、それには金属や非鉄金属、繊維類とかも使っているので、誘致企業などにこれらの中間部品でも試作品でもいいから、一緒に作ってもらおうという考え方もある。そうすると、地域の中で物も回る。

■議題② 松山市商工業立地促進審議会 答申(案)について

【前半部分について】

- 松山市の政策で、中小企業振興条例などの中小企業に対する政策がいろいろ手厚く展開されているので、中小企業が多いというようなことを一言入れておいた方がより深まるのかなと思う。工業統計の従業員数を市町村別で見ると、愛媛県内では松山市が一番多いので、中小企業の存在が非常に重いという風なフレーズを盛り込めば、他の政策との連動性というのでも生まれてくる。
- 冒頭から数ページは松山都市圏の話だが、それ以降が急に松山市の話になっている印象を受けるので、もう少し橋渡しの文章が必要ではないか。折に触れて、松山都市圏の中でのスタンスや相対的な位置づけなどを触れた方が良いのではないかと。
- 他都市と比較してコンパクトな街を形成していることが分かるエビデンスが欲しい。人によって捉え方が違うので、視覚的に分かるものがあればありがたい。

- 松山市の市街地の人口集中地区の人口が、その都市圏の人口に占めるシェアを出せばシンプルで分かりやすいのではないか。
- 「さらなるコンパクトシティの実現に向けて」というのは、市街化不拡大というイメージなのか。それとも機能集約というイメージなのか。前者だと用地供給することは難しい。
- 工場などは中心部になかなか集めきれない機能。そのような機能まで中心部に集めるという意味ではないと考える。

【商業の立地について】

- それぞれの見出しについて、使っている言葉の定義の整理をすることでより分かりやすくなるのではないか。
- 場所ごとに整理して分類し、概念をはっきりさせれば良いのではないか。
- 例えば、ゲストスピーカーが言われたように、中心市街地は循環型を重視したような商業機能に重点を置くなど、機能面で少し書かれても良いのではないか。

【工業の立地について】

- 業種というか機能というか、その産業の中で川上にある企業なのか、中間か最終財かというような切り口もある。また、それらが上手くサービス業などと繋がっていく必要性や、そのためには立地をどうすべきかという視点もある。そのように考えれば、小見出しがいくつか作られるのではないか。
- 砥部焼のようなレベルの高い陶芸品など、クラフト的な工業製品に関することが書けないか。
- 空き店舗などを利用して、クラフト製品でも何でも地域のものやアートなものでも良いが、作ることと販売することを合わせれば、昔で言う都市型工業ではないが、中心市街地型の工業プラス商業というのが松山市の中でも展開できるのではないか。地元の企業が作る部材や部品などを使えば循環していく。
- 大学の研究成果と結びついた事例などに関する記載ができないか。

【商工業の立地に関する推進方策について】

- 先ほど空き店舗の活用に関する話もあったが、遊休地や未利用地なども含めた活用策の検討も受け皿になり得るので、そういう風なことも少し加えておいた方が良いのではないか。
- 例えば、法制度に関しては国や県と連携しながら対応することが必要。また、特区のようなやり方もあるので、そういう施策の活用という部分に関することも追記した方が良いのではないか。
- おもてなしの心を持って企業に向き合うことが重要と書いてあって、これはこれで確かに重要だと思う反面、なんとなく受身の印象を受けるので、積極的に企業が今何を考えているのか、何を求めているのかというような情報を取りに行く、攻めの姿勢やニュアンスを入れた方が良いのではないか。
- 企業とのコミュニケーションを継続しつつ、企業が何を求めているのかということウォッチしていくことが重要。
- 「おもてなし」の対義的に言うのであれば、「御用聞き」ではないか。企業に対するニーズを聞きに行く。
- 「提案型」という考え方も取り入れてはどうか。
- 表現上で言うと、「横割り行政」というのはあまり良い感じがしない。「横断型行政」という方が良いのではないか。

【巻末部分について】

- 「守るべきものは守り」というのは、守り優先なイメージになってしまうのではないか。
- 「今ある強みを活かし」という表現を入れるのはどうか。
- 今の松山を全部変えなくてはいけないわけではないので、「強みや今の資源を活かし」というようなニュアンスも入れていただきたい。松山には大事な資産や資源が多くある。